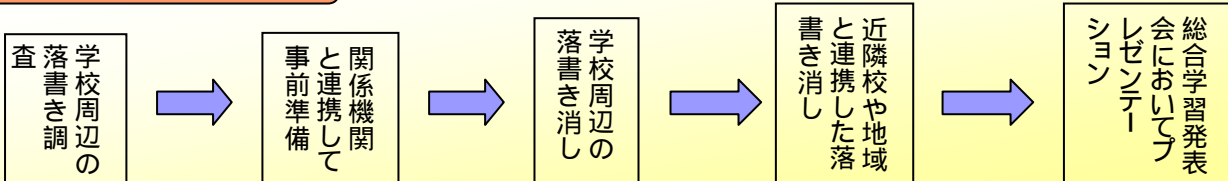


事例13「生徒の落書き消しのボランティア活動を通じて、地域ぐるみの環境浄化につなげる取組(中学校)」

取組のポイント

- ・総合的な学習の時間における「環境」に関する学習を、防犯協会・警察の地域安全運動に関連させ、地域の環境浄化に対する実践力を養うとともに、生徒の非行防止と健全育成を図る。さらに、中学生の活動を通して、環境浄化を市民・地域にアピールする。
- ・地域の環境を具体的な活動を通して考えさせる。
- ・自然環境だけでなく、社会環境にも目を向けさせ、すみよい街づくりに貢献する。

活動の流れの概要



教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間（環境）」を活用して全学年で実施：

- ・事前：「落書き調査」（2時間）と「地域環境ボランティア」（2時間）
- ・事後：「落書き消しの反省と考察」（1時間）と「総合学習発表会」（1時間）



事前の取組

学校と関係機関の役割分担に基づく事前準備

【学校】

保護者のボランティア参加を呼びかけ
近隣の学校に活動について周知
指導計画作り



【警察】

防犯協会連合会及び警察署からの全面協力があつた。

- ・落書き消しに関する所有者の事前許可
- ・落書き消しの道具の準備
- ・塗装業者への協力依頼
- ・自治会への連絡、参加呼びかけ



【学校の指導計画】

活動概要

- ・学校周辺の落書き調査を行い、マップを作成した。
- ・ボランティア生徒・保護者と一緒に、関係機関の協力を得て落書き消しを実施。
- ・地域の神社境内の除草作業を実施。
- ・再利用のできる不要物品に着目し、廃品回収の計画を立てる。
- ・フジ配り、ポスター制作、関係者への連絡等の事前準備を行う。
- ・廃品回収を行う。
- ・回収物の学習と、分別や後始末、引取り業者との交渉を行う。
- ・発表会（パネルディスカッション）に向けての資料を作成。

評価の観点

- ・進んで環境美化に取組んだり、環境に対する課題設定ができるなど、自ら課題を発見し、仲間とともに解決しようとする。
- ・社会科や理科の知識をもとに意見発表するなど、教科学習の内容を活用しながら、調べたことを簡潔にまとめることができる。
- ・コンピュータ操作や図表による提示などにより学習の成果を確実に伝えるなど、自分の考えや学習したことを、工夫してわかりやすく発表できる。

【学校の指導体制等】

指導体制

- ・総合的な学習の時間の全学年縦割り4領域のうち、環境領域で行う。
- ・環境領域をさらに学年縦割りで6班に分け、担当地域を決めて活動を行う。
- ・環境領域担当教師3名で各班を指導する。

実施上の留意点

- ・「生徒を実際に活動に参加させ、地域の環境を考え豊かな心を持たせるためには、連携した取組がなければ成立しない」という問題意識を関係者間で共有した。
- ・各機関で担当者を決め、連絡を密にとり調整を図った。

事後の取組み

【総合的な学習の時間の全体像】

- (1) 週2時間(年間70時間の設定)
- (2) 1年間で3期に分ける。
 - 第1期(4月から6月初旬):各学年単位で学習する。
 - 第1学年-市内班別行動学習
 - 第2学年-職場体験学習
 - 第3学年-修学旅行班別行動学習
 - 第2期(6月中旬から12月初旬):
総合学習の4領域に分け、全校縦割り単位で分かれて学習する。このうち「環境」:廃品回収と落書き消し
 - 第3期(12月中旬3月末):各学年単位で学習する。
 - 第1学年-進路学習(職場訪問)
 - 第2学年-修学旅行班別行動学習
 - 第3学年-卒業文集、卒業記念制作



・各機関、落書き消しに関する所有者、保護者等から意見をもらい、生徒の達成感を高める。

・落書き消しにとどまることなく、社会的影響等広い視野に立った考察をさせる。

【家庭・地域との連携】

- ・サポート委員会【地域の協力委員、PTA役員、校長、教頭、総合的な学習の時間への継続的な協力を依頼するために以下のことを実施した。
 - サポート委員会を定期的開催した。
 - 年間指導計画をある程度固定化し、協力して頂ける事業所・施設をリストアップした後、それらとの連携を一層強めた。
 - 地域からの講師を招く回数を増やし、継続的な学習を展開し、学習テーマの深化・充実を図った。
 - 継続的に学校便りに学習内容を載せ、事業内容を保護者に周知した。
- ・学校から各家庭に保護者のボランティア参加を呼びかける文書を配布した。



本事例の活用により期待される効果と活用上の留意点

【成果】

- ・生徒が、活動を進めていくうちに積極的に落書き消しに取り組んでいった。
- ・「落書きを消す」という単純な作業の中で生徒たちがその活動の楽しさや意義を実感できた。
- ・目に見えて「落書きがなくなる」という成果が出る活動の実施が、生徒の道徳性や社会性を育む観点からも有意義。
- ・被害者の心情を疑似体験することができ、「落書き消しは面倒くさい」という感情が、「何で落書きをするんだろう」という感情にかわり、少なくとも「自分は絶対しない」という決意ができた(被害者の立場に立った思考に立てることが、生徒指導の観点からも重要)。
- ・土曜日に行くこと、また、地域のイベントと合わせて開催したため、多くの人出がある中で開催でき、多くの地域住民に中学生の活動をPRすることができ、マスメディアの取材もあった。多くの人に見られる中で正しい行いをすることが、生徒の心にも良い影響があるものと考えられる。

【課題・実施上の留意点】

- ・中学生のほか、専門学校生や自治会役員などの多様な参加者があった一方、学校を通して募集した保護者の参加が悪かったため、広報の方法等を含め改善の必要がある。
- ・落書きに限らず、地域の中では社会環境における問題点が数多く存在する。これら他の社会的問題点にも目を向けさせることで、一層の生徒の健全育成方を検討する必要がある。
- ・今後とも継続的に関係機関との連携がスムーズに行われるよう、日頃からの連携・協力を努める必要がある。